

こみゆにTe@たいむ

日本一のむらづくり学ぶ



佐藤勤悦会長の講演に耳を傾ける参加者

市は3月17日(日)、二戸地区合同庁舎で「地域づくりリーダー研修会」を開催し、町内会・常会の会員や地域づくり団体など約60人が参加、地域の資源を活かしたまちづくりについて学びました。

研修会は、協働のまちづくりをリードする人材や団体の育成を図るため毎年開催しています。今回は平成24年度農林水産祭むらづくり部門で天皇杯を受賞した浄門の里づくり協議会の佐藤勤悦代表が「自分達の住むむらは自分達の手作り」と題して講演しました。

講演では、「産直を中心とした農業所得向上」「地域農業への担い手確保」「生活・環境整備」「都市住民との交流」のそれぞれの取り組みについて、約20年にわたるむらづくり活動を振り返りました。佐藤会長は「住民がここに住んでいて良かったと思える『浄門の里』の創造を進めたい」と決意を述べました。

第2部では、宝を生かしたまちづくり賞の表彰が行われました。(受賞団体および概要については17頁に掲載しています)

第3部ではまちづくり事業補助金の事業報告が行われ、今年度まちづくり事業補助金を受けた4つの町内会が、街道をいかしたまちづくり、まつりの復活、宝の案内板の設置など地域づくり活動の成果を発表しました。報告団体と事業名は以下のとおりです。

- ①大段町内会「歴史・文化資源の整備事業」
- ②上野部落会「『まきばのまつりっこ』事業」
- ③下平一町内会「オカリヤ賑わい再生事業」
- ④上米沢町内会「地域の宝を『学び』『守り』『活かす』事業」

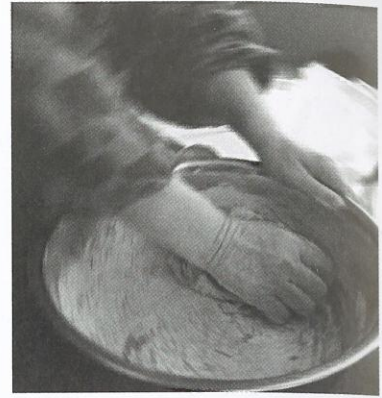
問い合わせ先 地域振興課 (内線 384)



4団体が取り組みを発表

—地域おこし協力隊通信—

たからぼの中



一かき目「手間をかける」

蕎 麦を打つ。こびるやお料理を作る。木を切る。薪まきで火を熾す。

色々な地域にお邪魔し、こういった何気ない暮らしの1シーンをみるたびに、皆さんの手先の器用さに驚かされます。

◇ ◇ 私がかつて住んでいた東京の暮らしは、手間をかける代わりにお金が動いていて、何かを手に入れたように思います。

そんな暮らしに疑問を持つようになったきつかけは、2年前の3・11でした。東京は地震そのものの被害は少なかったものの、食料の生産地がダメージを

受け、かつ流通が止まったことで物がなくなる恐怖におびえた人々がパニックを起こし買い占め行動に走りました。

◇ ◇ スーパーの棚は常にガラガラ。もう大丈夫と言われても、買い占め続ける殺伐とした光景に、食べ物すら生み出せない都市の脆さを見ました。

◇ ◇ 昨年11月に二戸に来て、寒い冬を暮らすうちに、この地には徹しくも豊かな自然から恵みを受けて暮らしてきた歴史と文化があることを知りました。冬だからこそ見えてくる保存食のパリエーションの豊かさ。自然の厳しさを知りつくし、備える文

化に、この土地の地方と知力を感しました。

先人から受け継いだ知恵と、手間を惜しまない日々の暮らしによって皆さんの器用な手先は生まれてきたのだと思います。

◇ ◇ その手から生まれた物たちは、素朴で温かくて美しい本物ばかり。そんな宝がいっぱい詰まった二戸。住むほどに好きになってしまおうステキな街なのですが、実は最近困ったことが。

◇ ◇ 二戸は食べ物(とお酒)が美味しくて、ごまかせないほど太ってしまいました。どなたか二戸流食べても太らない知恵を教えてください！
(地域おこし協力隊・永井尚子)

地域おこし協力隊企画・二戸の宝を訪ねる旅

日帰り **二戸の旅** 第1回参加者募集

～古の城下町、二戸の桜とオシドリ散歩～



- 開催日時 4月27日(土) 午前9時～午後3時30分
- 集合時間 午前8時45分 二戸駅西口集合
- 参加費 3,000円(昼食、ガイド、バス代、保険料を含む)
- 問い合わせ、申込先 銀河鉄道観光 ☎019-654-1489